



瓜生山Workshop 開催しました！

こんにちは。いよいよです。みなさんの藍はすくすく育っていますでしょうか。我が家の藍は暑さに押され気味ですが、なんとか日々葉を増やしています。そして、7月28日、瓜生山農園で実施されたワークショップにお越しいただいたみなさま、ありがとうございます！農園を管理されている成澤さんにもご協力いただき、瓜生山で育った藍の葉と、フィルタングさんからご提供いただいた丹後ちりめんの生地で、「生葉染め」と「たたき染め」を行いました。



農園の藍は同じ種から育っているのに土が違うのか、二番刈りの藍の葉も青々として茎が太く、立派です。藍を収穫し、まずは生葉染め。茎から摘み取った藍の葉を浸る程度の水の中でちぎり、細かく潰します。オオニシさんの「気持ちはミキサー！」という言葉に胸に黙々と。同じたらいを囲んで同じ作業をしていると、自然と会話がはじまり、うちの子藍トークに花が咲くみなさん。思い返せばこれがはじめて直接交流する機会だったんですね。近況を聞き合うだけで、なんだか心強いひとときです。「育ちが悪くて……」というお話もちらほら聞いて、うちの子だけじゃなかったんだ、と……。どうやら、手を入れすぎず、大らかな気持ちで育てる方が、藍もののびのび育つのかも？とお話を聞いていて感じます。そうこうしているうちに、青い草の匂いとともにたらいのなかはどろっとした深い緑の青汁状に。「ほんとうに藍色になるの？」という声も聞こえるなか、染めるうちに液体は深い青に。液から布を引き上げ乾かすと、また一段明るい色へ変化していきます。藍の葉と水と空気と。

日々愛でる

出射 優希



たたき染めに至っては、葉っぱと道具さえあれば染まるから、自然と、それを発見する人の力はふしぎです。普段こうして素材に直接触れ、じっくりと向き合い、ものとして残していく機会が少ないからこそ、色の変化や匂いひとつとっても新鮮。同時に、今回体験した工程は料理をするときの感触にも少し似ているなぁと考えたり、食と衣の思わぬ近しさに、藍染とそのおもしろさがグッと身近になった一日でした。

NEW!

藍を愛でるの note ができました

藍を愛でるのがより楽しくなるかもしれないインタビューなどを掲載中！（計画中！）
お気に入り登録をして、次回をお楽しみに！



愛でる通信 次は 10 月

- ・みなさんから届いた # 藍を愛でる
- ・種の取り方などを掲載予定！

おおい！



愛でる通信

第二号

2024 年 8 月

編集・イラスト

オオニシカナコ

藍を愛でるスタートから2ヶ月!!

こんにちは。藍を愛でる、オオニシです。毎日暑い日が続きますね。種まきデイから2ヶ月、楽しんでいただけてますでしょうか。我が家の藍は一時、芽がひょろひょろで不安になったり、ダンゴムシが土に大量発生した時もありましたが、暑さに負けず育っています。

この2ヶ月『藍を愛でる』では、オンラインミーティングを皮切りに、藍農家の西村さんにお越しいただきレクチャー、

そして、先日は瓜生山農園でワークショップを開催しました。

いよいよ収穫、染めです！アイから色をいただきましょう。今回紹介する染め方は一例で、生葉染めの中には煮る方法や、助剤を使い綿を染める方法などさまざまあります。ぜひ調べて試してみてください。藍は食べることもできちゃいますよ。



8月Instagram・LINEに届いた、
生長中のアイの写真を抜粋して紹介します！

みなさんの # 藍を愛でる



引き続き、頑張ります！



ショウリョウバッタが住み着いている
ようで、かじられています



ワサワサに育ってきましたが、暑すぎるのか枯れたところも見られました。
枯れると藍色が良くわかります。



夜は少し葉が閉じているように思います



茎ひょろですが頑張ってます



蓼藍、大きくなりました！



来週、子どもたちと藍染めしたいなー
と思っています。



アイが、どうにか健気に30cm位の丈に育ってます。害虫被害にあいながらも頑張ってますよ。



お店の看板藍です



植木鉢を持ち上げたら
下の穴から根が出ていました!!



植えた場所によって、生育差が目立ってきました(´_`)

生葉染め

葉が大きくなったら染めてみましょう！

用意するもの

・収穫したての葉 … 目安は生地重さの5倍ぐらい
(株元10cmぐらいを残して刈るとまた生えてきます)

・水 … 藍の葉の重さの13倍ぐらい

・染める生地 (絹など動物性繊維のもの)
・染める容器 (ボウルやバケツ)
・濾すためのザル (不織布も可)

葉の大きさは
10cmぐらいが
収穫どき

今回は
葉と水のみで染める方法です
この方法では綿の生地は
染められません

手順

- 1 茎からとった葉を容器に入れて、水を入れます
- 2 水の中でひたすら葉をちぎります (図1)
葉にキズをつけ葉の中の色を水に溶かすイメージです
- 3 青汁のような緑の液ができれば、良い感じですよ！
そうしたら、ザルまたは不織布で濾します (図2)
染液の完成です！
- 4 染める生地を一度水につけ、絞ります
- 5 (4)で濡らした生地を15分ほど、染液にひたします
- 6 15分経ったら、軽く絞り、
生地を広げ空気に触れさせます
- 7 最後に洗います
水を入れ替えながら、緑の液が出なくなったら完了です！
タオルに巻いて脱水するなどして、干しましょう



図1

図2



図3

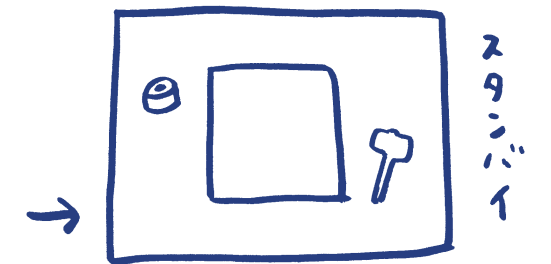
図4

たたき染め

葉の量が少なくてもできます◎

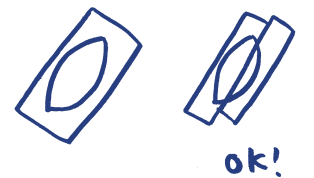
用意するもの

- ・染める生地 (絹、綿も可能です)
- ・収穫したての葉 … お好きなだけ
- ・新聞紙など、板も可 (下に敷く用)
- ・木づちや木の棒など叩くもの
- ・セロハンテープ (太めがオススメ)



手順

- 1 生地の上に葉を自由に配置しましょう
そして配置した葉をテープで固定します
- 2 テープの上から葉を木づちなどでトントン叩きます (図3)
叩くことで葉の汁を布に染み込ませるイメージです
裏から見ると染み込んでいるかがわかります
- 3 染み込んだら、テープを剥がし、30分～可能であれば1日置きます
- 4 中性洗剤で染めたところをゴシゴシと、もみ洗いします
緑色の泡が出ると良い感じ◎ 葉の青が見えてきます (図4)
洗剤を洗い流し、干したら完成です！



参考にした本



つくってあそぼう
藍染の絵本

著者 山崎和樹 編
城芽ハヤト 絵
出版 農山漁村文化協会 (農文協)



そだててあそぼう
アイの絵本

著者 日下部信幸 編
仁科幸子 絵
出版 農山漁村文化協会 (農文協)

秋植えについて

秋植えについて、
『そだててあそぼう アイの絵本』p17に書かれています。

- ・あたたかい地方なら、9月ごろにタネをまいても
11月ぐらいにたたき染めや生葉染めができる
- ・霜が降りると枯れてしまうので、
最低気温が5度以下になる前に利用
- ・春まきに比べると少し緑がかっていて、うすくしか染まらない

とのこと。何が変わるのか、なぜ藍は春まきをしているのか、
なんてことなどを考えながら、ぜひ興味のある方は試してみてください！